

第 2 次
飯田市中山間地域振興計画
中期の取組

平成 31 年（2019 年） 3 月

令和 4 年（2022 年） 4 月 1 日 追加

長野県飯田市

目次

第1章 第2次飯田市中山間地域振興計画について

- 1 計画策定趣旨
- 2 計画の構成と計画期間
- 3 中期の取組策定の趣旨

第2章 第2次中山間地域振興計画により目指す方向

- 1 中山間地域振興の基本理念
 - (1) 中山間地域らしい、中山間地域だからできる暮らし方を実現する
 - (2) 空間を守り、これからの地域づくりにつなげる
 - (3) 潜在的な力を掘り起し、地域の強みを活かした交流を進める
 - (4) 地域に関わる部分＝「関わりしろ」のある地域を目指す
 - (5) 暮らしを支える基盤と生活環境の整備に取り組む
 - (6) 地域と行政が協働して取り組む
- 2 基本方針
 - (1) 現在住んでいる住民が誇りと愛着を持って住み続ける地域づくり
 - (2) 中山間地域の営みを活かした起業（産業）展開から広がる地域づくり
 - (3) 地域の魅力と資源を活かして交流を促進し、関係人口を増やす地域づくり
 - (4) 地域外からの移住者を増やし、ともに未来を拓く地域づくり
 - (5) チャレンジから生まれる次世代につなぐ地域づくり
- 3 この計画により目指す10年後の姿

第3章 中期4年間の取組

- 1 前期の振り返り
- 2 中期の基本的方向
- 3 重点取組
 - (1) 交流人口及び関係人口の創出・拡大
 - (2) 移住・定住の推進
- 4 中期における目標の考え方
- 5 中期における具体的な事業展開
 - (1) 今住んでいる人たちの暮らしの良さを高めていく
 - (2) 関係人口を増やす
 - (3) 移住・定住を増やす
 - (4) 中山間地域だからできる産業おこし

第4章 中山間地域振興計画の推進

- 1 計画推進の方針
- 2 計画推進における役割分担
- 3 中期におけるそれぞれの役割

第1章 第2次飯田市中山間地域振興計画について

1 計画策定趣旨

第2次飯田市中山間地域振興計画は、令和元年度（2019年度）に策定をしました。

中山間地域は、地域住民の「生活の場」でもあり、人々が中山間地域で生活を営み、地域を保全し、生産活動を継続することにより、安全・安心な農林産物の供給をはじめ、森林や水田の保水機能による国土の保全や水源のかん養、更には森林による大気の浄化や地球温暖化防止等の「環境の保全」など多面的で重要な機能を担っています。

また、先人たちから伝統文化が脈々と受け継がれ、文化的な観点からも将来に引き継ぐべき大切な財産を有している地域になります。

特に今次の計画期間においてはリニア中央新幹線や三遠南信自動車道整備に伴うアクセス道路など社会状況の変化が進み、交通・流通だけではなく人の流れの変化も起きてくる時代を迎えます。

しかしその一方で、人口の減少、高齢化の急速な進行により、地域づくりの担い手不足、生活環境の悪化、地域の基幹産業である農林業の低迷などから、集落単位での活動を継続することが困難となる地域が生じるおそれがあり、厳しい局面を迎えることも危惧されます。

この様な中で、住む人々が地域に誇りと愛着を抱いて心豊かに暮らし、地域外の人とのつながりを広げながら、人財となり得る人を呼び込み、新たな活力を創り出し、次世代へとつながる地域を目指していくために、第2次中山間地域振興計画を策定します。

2 計画の構成と計画期間

第2次飯田市中山間地域振興計画の計画期間は、令和元年（2019）年度から令和10（2028）年度までの10年間です。これは、市の総合計画である「いいだ未来デザイン2028」の分野別計画としての位置付けを持ち、また各地区で策定された地区基本構想との連携を図り進めていくためです。

計画では、6つの基本理念と計画期間中に重点的に取り組む5つの基本方針を定めて、持続可能な地域づくりを目指し、地域との関係性から移住・定住へつなげていくことに特化した計画として位置付け、交通・医療・子育てといった地域住民が不安に感じている課題は、各種分野別計画との連携により取り組むこととしています。

また、「いいだ未来デザイン2028」や関連する計画の改定、社会経済情勢の変化、地域づくりの進捗状況などに応じて、10年間の計画期間を前期・中期・後期に分け、それぞれの期ごとに、その時の課題や社会情勢に対応した目標と重点取組を定めることとしました。

3 中期の取組策定の趣旨

今回の計画は、前期の取組状況や社会動態などを踏まえ、中期（4年間）の目標及び重点取組を策定するものです。

前期3年間は、関係人口の構築と移住・定住に向けた動きにつなげていくための、土台づくりとしましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実践ができない取組もありました。一方で、若者世代等を中心に地方暮らしの志向が高まりを見せています。

このため、これら社会情勢や移住者の動向、地域の活動の状況などを踏まえ、中期で重点的な取組を策定します。

※計画期間を図に示すと以下のとおりとなります。

中山間地域振興計画の基本理念・基本方針（10年間） 「住む人々が心豊かで暮らし、地域内外の人とのつながりを持てる地域」		
前期（3年）2019～2021 重点取組 関係人口の構築と移住・定住に向けた動きにつなげていくための土台づくり	中期（4年）2022～2025 重点取組 ※社会情勢や前期の取組を踏まえ策定	後期（3年）2026～2028 重点取組 ※社会情勢や中期の取組を踏まえ策定

○移住相談等の状況

人口減少に歯止めをかけ、地域活力を維持・向上させていく上で重要な移住・定住の促進に向けた取組を、組織横断的に、かつ、機動力をもって推進するため、平成31年4月に「結いターン移住定住推進室」を設置しました。

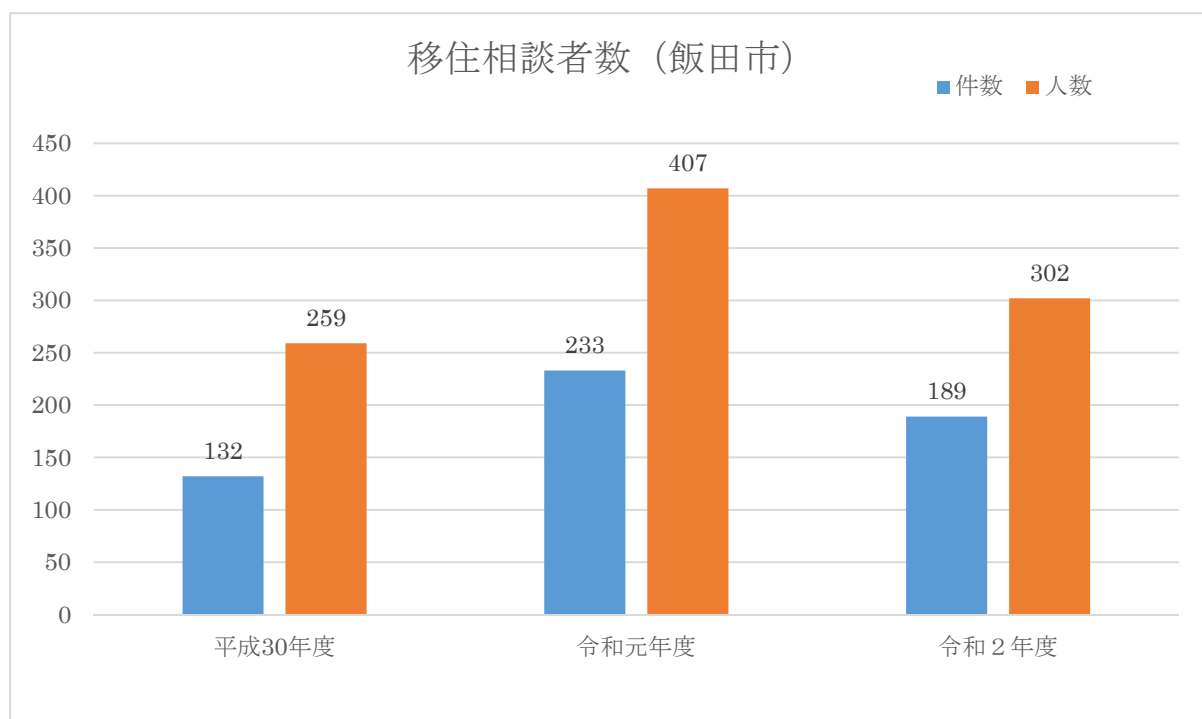
当室では、都市部で生活している若者と子育て世代を重点対象に、多様な情報発信と、職・住・暮らしに関するきめ細かなオーダーメイド型の相談支援を行い、令和元年度は114人、令和2年度は98人の移住につなげることができました。うち30～40代を中心とした子育て世帯が約6割を占めています。

コロナ禍の中で、この地に訪れていただくことが難しい中、オンラインを活用した移住相談や移住セミナー、暮らしの紹介動画の制作等の企画を進めてきました。

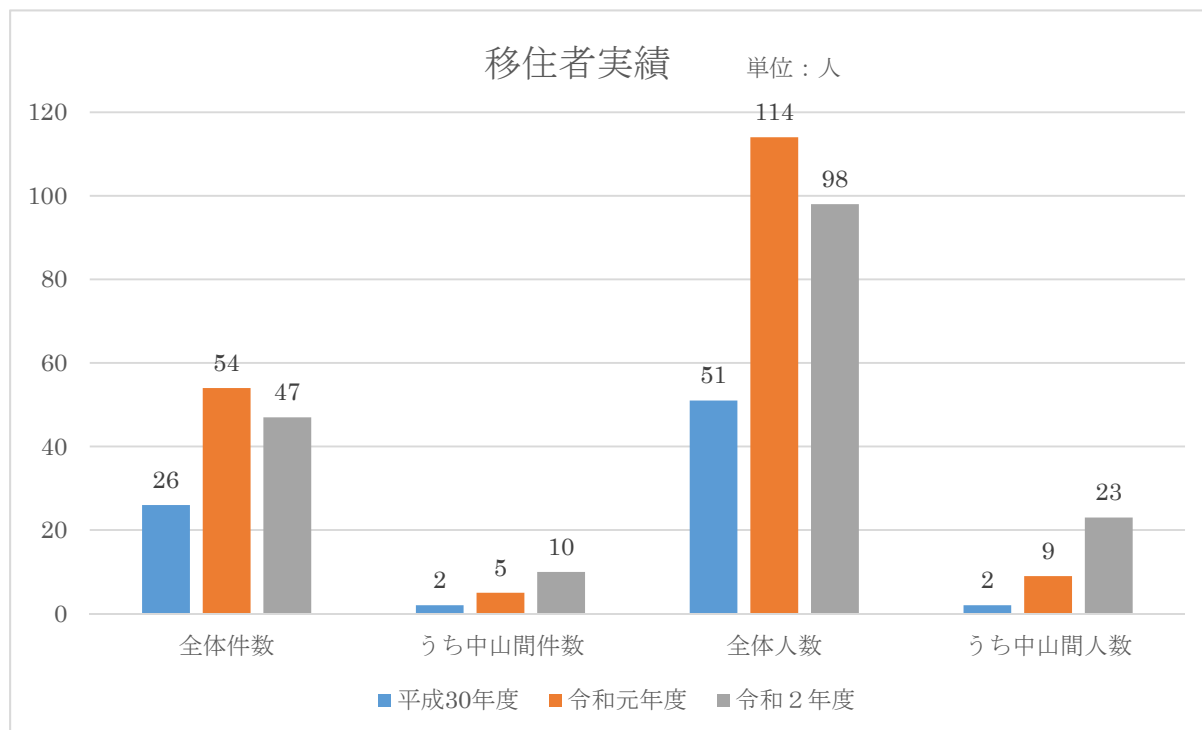
移住には、「住む場所」「仕事」「移住後の暮らし」が決め手になることから、空き家の掘り起こし、事業者と連携した職業紹介、移住後の暮らしの紹介などを、地域と連携しながら進めており、中山間地域ではその成果が徐々に始まっています。

新型コロナウイルス感染症の事態により、働き方や暮らし方に対する企業や個人の価値観の変化が生じている中、地方移住を暮らしの一つの選択肢として考える移住希望者からの相談が増えることが想定されることから、この流れをしっかりと捉え、地域や関係機関と情報を共有し、連携を図ることが重要です。

移住相談者数の推移



移住実績の推移



第2章 第2次中山間地域振興計画により目指す方向

本計画は、中山間地域における今後の社会変化の中で、住む人々が地域に誇りと愛着を抱き、心豊かに暮らし、地域外の人とのつながりを広げながら、新たな活動を創り出し、次世代へとつながる地域を目指していくための計画として策定しています。

中山間振興の6つの基本理念と計画期間中に重点的に取り組む5つの基本方針を踏まえ、前期・中期・後期の取組を策定します。

1 中山間地域振興の基本理念 ～将来にわたり持続可能な地域を目指して～

(1) 中山間地域らしい、中山間地域だからできる暮らし方を実現する

中山間地域には、「自然と共に生きる暮らし」「人と人が見える暮らし」など地域の特色を活かした様々なライフスタイルが描ける場所があります。

地域の良さに気付き、それを高めあう、「ここでしかできない、ここだからできる暮らし方」の実現に向け取り組みます。

(2) 空間を守り、これからの地域づくりにつなげる

中山間地域には美しい農村景観が保たれています。この景観は、自然が生み出しただけではなく、農地や山林を守り続けてきた先人たちの営みやそこに人々が暮らし続けてきたことにより作り出されています。その様な「景観」と「営み」の中で作られている時間をプラスした「空間」づくりを進め、次世代につなげていきます。

(3) 潜在的な力を掘り起し、地域の強みを活かした交流を進める

住んでいる人には気づかない、外から訪れた人だから気づく地域の魅力がまだまだ隠されています。地域の強みを活かし、潜在的な力を引出し、これらを軸にした交流を進めます。

(4) 地域に関わる部分＝「関わりしろ」のある地域を目指す

地域は多くの人々のつながりの中で様々な活動が行われています。地域に住む人が、自らの地域を自分ごととして捉えられるには、地域に関わる部分＝「関わりしろ」を作ることが大切です。今住んでいる人、これから住む人それぞれに、地域へ関わる「関わりしろ」のある地域を目指します。

(5) 暮らしを支える基盤と生活環境の整備に取り組む

持続可能な地域を維持していくために、住民生活に密接に関係する生活基盤や環境整備は必要不可欠な要素となります。飯田市で定めた各種計画と連携をしながら事業推進を図ります。

(6) 地域と行政が協働して取り組む

各地区の基本構想や地域づくりの目標と連動して、地域と飯田市が同じ目標に向かって地域づくりを行います。地域や住民が主体的に地域づくりを担う取組に対して、飯田市も一緒になって取り組む協働・共生によるまちづくりを進めます。

2 基本方針 ～この10年で重点的に取り組むこと～

中山間地域においては、これまで生活、産業、交流、地域資源など様々な分野に及ぶ取組が行われ一定の成果を上げてきました。しかしながら、高齢化の進行や少子化の影響による人口減少に歯止めがかからない状況です。

一方で今後リニア中央新幹線や三遠南進自動車道といった交通インフラの整備にとともに、移動時間が大幅に短縮されることにより、今までにない人の流れが生まれてくる

ことが予想されます。

このため、人口減少の影響を最小限に留め持続可能な地域づくりに向け、今回の計画においては、今後 10 年間で重点的に取り組むことに特化した計画とし、地域と行政の協働により様々な事業を効果的に展開するよう努めます。

(1) 現在住んでいる住民が誇りと愛着を持って住み続ける地域づくり

今住んでいる人が生き生きと暮らしていることは、地域外から訪れた人にとっても「関わり」を持ちたいといった思いにつながる要素を秘めています。そこに暮らす人々が地域に誇りと愛着を持ち続けられるような環境づくりと、地域内外の人と人とのつながりを高めていく取組を進めます。

また、今後も住み続けていくために必要な生活基盤・環境整備や、地域にある生活課題の解決に向けた取組を協働して進めます。

(2) 中山間地域の営みを活かした起業（産業）展開から広がる地域づくり

中山間地域では、豊富な農山村資源を活用したグリーン・ツーリズム、エコ・ツーリズムなどが展開され、地域内外の交流のきっかけや産業に結びつく取組が行われてきました。地域や集落の点検の中から交流の基となる暮らしを産業につなげる取組と、中山間の特色を活かしたコミュニティビジネスに結びつける取組を進めます。

(3) 地域の魅力と資源を活かして交流を促進し、関係人口を増やす地域づくり

中山間地域には住んでいる人には当たり前と感じ気づいていない潜在的な力を秘めています。地域に住む人たちが、地域の魅力に気づく取組とあわせ、地域外の人に何度も訪ねてもらうような交流を行い、関係人口を増やす取組を進めます。

(4) 地域外からの移住者を増やし、ともに未来を拓く地域づくり

どのような人に来てほしいかといったイメージを地域の中で共有し、その様な層をターゲットにした交流を進めていくことが大切です。また、移住者を地域づくりを共に行う仲間として受け入れる意識づくりが必要です。これらを行うために、地域ごとに移住者と今住んでいる人を結ぶ、身近に相談できる人づくりを進めます。

(5) チャレンジから生まれる次世代につなぐ地域づくり

地域に住む人や地域団体、行政、地域とのつながりの中から関わりを持ってくれる方、これから関係性を共に築ける可能性のある方など、いろいろな人が参加して地域課題に向き合うことで、今までよりたくさんの方の方法を試すことができます。

歴史的にも経験したことのない人口減少社会において、可能性を拓くためのチャレンジを行う中では、様々な壁にぶつかる時もあります。これらの壁も多くの人の関わりの中で乗り越えながら、試行錯誤とチャレンジを繰り返し、次世代に地域をつなぐ取組を進めます。

3 この計画により目指す 10 年後の姿

「住む人々が心豊かで暮らし、地域内外の人とのつながりを持てる地域」

第3章 中期4年間の取組

1 前期の振り返り

計画期間前期（2019～2021）においては、地域の資源を活用した地域内外の「交流」を重ね、人と人とのつながりの中で生まれる関係人口を増やし、「移住・定住」につなげていくためのきっかけとなる取組を進めていくことを軸としていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、都市部との関係人口を構築する取組を実践することが難しい状況となりました。

一方で、地域で抱える課題解決に向け、各地区基本構想に基づきながら、各地区では、地域内の点検の中から空き家の掘り起こしや体験プログラムの構築に向けた準備など、次の取組を行ってきました。

少子高齢化が進む中で、地域のファンづくりや実際に移住してきた後のフォロー体制の構築など、持続可能な地域づくりに向け地域と連携して取組を進めていくことが重要です。

○まちづくり委員会が実施する事業への支援

中山間地域振興計画の地区アクションを具現化する取組、移住定住へつなげる取組への支援を行いました。

①中山間地域振興事業支援補助金：中山間地域の地域振興に係る事業

下久堅	関係人口構築に向け、下久堅ふれあい交流館を活用した事業 (紙漉き体験用の説明パネル作成・紙漉き機材設置と活用)
上久堅	地区の魅力発信に向けたホームページ委員会の組織化と広報・情報発信活動
千代	地域外の方への地域魅力発信と地域住民への地域の魅力の再認識の場として 千代まるごとフェスタの開催
龍江	地区基本構想策定に向けた先進地視察、アウトドアフェスなどの情報発信に 向けたデジタル機材整備
三穂	小笠原家書院を核とした周遊観光に向け、空き家となっていた下屋敷を活用 した地区内の拠点づくり
上村	自然体験プログラムの構築と実践、SDGS 教育を通じた持続可能なまちづくり の取組と若者や地域住民の集いの場となるような活動拠点づくり
南信濃	少数だからできる特色ある教育の発信に向けた調査研究と移住定住に向けた 組織づくり

②中山間地域定住支援補助金：中山間地域への定住支援に係る事業

下久堅	子育て支援（通学路環境整備）、交流拠点であるふれあい交流館の施設整備
上久堅	高齢者の生活支援（配食）、子育て環境の施設整備、集落機能の維持支援（JA がリンスタド利用者への補助）
千代	関係人口構築に向け地域住民が主体となり野池親水公園を整備

龍江	龍江子育て支援商品券の発行、関係人口構築に向けた南信州龍江アウトドアフェス・シンポジウムの開催
三穂	高齢者等の交通弱者への支援（公共交通利用支援補助金）、子育て仲間づくりの支援（旧小笠原家書院活用事業）
上村	就労補助金、IUターン歓迎補助金事業、子育て支援、通学支援等への補助
南信濃	※過疎法に基づく支援

○住宅支援

中山間地域振興計画改定に伴うアンケート調査において、将来的な近居・同居の意向が42.7%となりました。これらの皆さんを地域に留めるダム的な施策と地縁者の地元回帰による誘導を行うため、親世代との近居・同居を行うための住宅支援をスタートしました。

これまでに、14件50人（うち子ども24人）の利用があり、中山間地域の人口減少に歯止めをかける取組につながっています。

○空き家問題への対応

中山間地域の各地区では、空き家問題が顕在化しています。この問題に対応するため、各地区において、空き家問題の解決に取り組むための組織づくりが進められました。

また、地域内の点検により活用可能な空き家の掘り起こしも進められており、移住希望者等へのマッチングも行ってきました。空き家に対するニーズが高まりを見せている中、更なる空き家の掘り起こしが必要です。

中山間地域における実績

改修補助件数：14件、環境整備補助件数：9件、子育て引越し支援件数：2件

○農村起業家の育成

平成30年度に龍江地区でスタートした農村起業家育成スクールは、これまでに30名が受講しています。それぞれが中山間地域の資源を活用したビジネスモデルを作成し、具体的な事業をスタートしています。また、受講生同士が有機的につながり、新たな事業を構築する動きも芽生えてきています。今後も、地域の活性化に向けて起業家育成の取組を進めていくことが重要です。

○地域おこし協力隊の導入

人口減少や高齢化等の進行が著しい中山間地域において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住及び定着を図り、地域の活力の維持や強化につなげるため、平成27年度から地域おこし協力隊を導入してきました。これまでに11名の隊員が活動し、空き家活用や移住定住など地域の課題解決に向け、それぞれの地域において取組を進めています。

○移住定住に関する取組

移住定住を進める上では、「住む場所」と「働く場所」の確保が重要になります。

地域で掘り起こしを行った空き家を移住者に案内し、マッチングする取組などを進めるとともに、事業者と連携した就業先の紹介などを行ってきました。

また、地域の魅力の発信力の弱さが課題になっていることから、オンラインを活用した情報発信力の強化のため、各地区ではホームページ委員会などが立ち上がり、空き家情報を始めとした地域の暮らしの情報の発信体制が作られ始めています。

これまでに、結いターン移住定住推進室を経由して移住された方の多くは、I Jターナー者ですが、今後はUターナー者も対象に更なる発信力の強化が課題となっています。

2 中期の基本的方向

新型コロナウイルス感染症の事態は、私たちの暮らしや働き方に大きな変化をもたらしました。

オンラインを活用したテレワークの導入が進んだことにより、若年世代の地方移住志向が全国的に高まりを見せており、リニア中央新幹線の開業が間近に控える状況から、これまで以上に飯田に暮らしながら実現できるライフスタイルの多様性が広がり、こうした追い風を生かした取組次第では、若年層の移住志向を更に高めることが可能となります。

このため、中期においては、新型コロナウイルス感染症の影響により前期に実践できなかった都市部等との関係人口の創出といった土台づくりと並行し、地方移住志向の高まりをチャンスと捉え、移住・定住を更に推進します。

これらを進めるために、地域づくりに関わる多くの人が集い、思いを共有し、試行錯誤と実践を繰り返しながら持続可能な地域づくりを目指します。また、中期の取組を踏まえ、後期における軸となる取組を検討します。

3 重点取組

(1) 交流人口及び関係人口の創出・拡大

- ・地域資源を活用し、都市部住民等とのつながりをつくる取組を実践し、地域のファンづくりを進めます。
- ・遠山郷・竜東・天龍峡（三穂）エリアを軸に、地域資源のネットワーク化を図り、関係人口づくりを目指したプログラムを構築し、実践します。

(2) 移住・定住の推進

- ・地域の暮らしを体験するプログラムの実践、空き家情報の集約・提供、暮らしの世話人などの受け入れ態勢により、移住・定住を積極的に推進します。

4 中期における目標の考え方

関係人口の創出と移住・定住に向けた取組を推進していくために次の目標値を設定します。

<目標1> 新たな交流プログラムの構築

中山間地域は、住んでいる人には当たり前と感じ、気づいていない潜在的な力を秘めています。これらの力（資源）を磨き上げ、地域の魅力を発信し、地域外の人との交流と、関係人口を増やす取組を進めるため、新たな事業体やまちづくり委員会などの団体が主体となり、地域資源を活用したプログラムの構築と実践を行います。

目標名	目標値
新たな交流プログラム数	7プログラム

<目標2> 移住定住の推進

コロナ禍において、働き方や暮らし方に対する企業や個人の意識に変化が起きており、地方暮らし志向が、これまで以上に高まってきています。こうした背景を追い風に「田舎へ還ろう戦略」を更に推進し、中山間地域への移住定住を推進します。

目標名	目標値
田舎へ還ろう戦略により5人以上の移住者の誘致が実現した中山間地区数	7地区

※いいだ未来デザイン 2028 基本目標9の指標を引用。

5 中期における具体的な事業展開

中期4年間における具体的な事業は、次の4つの視点で地域、行政、関係団体など様々な皆さんとの協働により事業推進を図ります。

(1) 今住んでいる人たちの暮らしの良さを高めていく

関係人口の創出や移住・定住を進めていくためには、地域住民が心豊かに生き生きと暮らしていることが基本となります。このため、暮らしの良さを高めていくための取組を市の各分野別計画と連携し進めます。

また、各地区の基本構想の具現化に向け、各地区まちづくり委員会が実践する取組への支援を行います。

関係人口の創出に向けては、地域住民が心豊かに生き生きと暮らしている状態が基本となります。また、地域外から訪れる人や移住者と本気で向き合える人の存在が不可欠です。このため、地区の基本構想をベースに置きながら次の2点について進めていきます。

① 人財育成

中山間地域を持続可能なものにしていくための原動力(エンジン)は「人財」です。

関係人口を創出していくには、地域の中に入口となる人材と支えていく人材が必要になります。このため地域の人材の掘り起しと育成を行います。

地域全体をコーディネートする人材だけでなく、外から来た人にとっては、普段の生活の中で支えてくれる人の存在が大きな要素となります。自治活動組織等の任期にとられない、集落単位における人とのつながりの検討や、地域の意識を高めていく取組を推進します。

② 潜在的な魅力の掘り起し

地域の宝探しは、これまでも各地区で取組が進められています。その宝を一つの視点で見るのではなく、違った視点で捉えると、新たな資源の発見や他の宝とつながる可能性を秘めています。

現在住んでいる皆さんが地域や集落の実態把握により特徴や個性、魅力を再確認し合うことに加え、外の視点により地域が潜在的に持つ価値を高め、点から線、線から面につなげる取組を推進します。

ア 地域資源の再発見と新たな掘り起し

地域点検、集落点検などにより資源の可視化・意識の共有

イ 外の視点との融合

外とのつながりにより、中には気づかない発想への展開

ウ 地域おこし協力隊の導入による地域課題解決に向けた取組の推進

(2) 関係人口を増やす

中山間地域の暮らしには、住んでいる人から見ると当たり前になっていることが、地域外の人から見ると驚きや感動につながるものを多く秘めています。地域の潜在的な魅力を掘り起し、集落の何でもない所に物語をつくり出すことや日常の暮らしを体感することで、関係人口を増やすきっかけにつながります。

これらを実現するためには、地域住民自ら地域や集落を様々な角度から再点検し、集落単位にその地域を語れる人材を育てることや、地域外にいる地域出身者や関わりのある方など外の視点による魅力の再発見などが必要になります。これらの外と内の気づきを融合させ、地域を軸にした人のつながりによる情報発信を行い、交流から関係人口の構築に向けた取組を進めます。

また、令和3年11月に Airbnb Japan(株)、(株)南信州観光公社及び飯田市の三者で締結した包括連携協定により、コロナ禍においてニーズが高まっている「人と出会うこと、人に会いに行くこと」や「日常の暮らしを体験すること」の価値を具現化させていくため、市内農家民泊（民泊）事業者と連携し、関係人口の創出及び移住定住の推進を図るとともに、空き家の有効活用やホストコミュニティの活動支援を行い、地域課題の解決と地域経済の活性化に向けて取組を行います。

ア 魅力・暮らしの情報発信（ターゲットの絞り込みと交流プロモーション）

イ 交流から関係へつなぐため、中長期の滞在プログラムの検討・実践

ウ 外部視点による中の気づきの誘発

思いを持った人をつなぐ取組

エ 中山間地域の資源のネットワーク化

エリアプロジェクトによる各地区の資源のネットワーク化と実践

○各地区で取り組む事業

地区名	重点的に取り組む内容
下久堅	<ul style="list-style-type: none">・下久堅ふれあい交流館の活用・ひさかた和紙体験交流プログラムの構築と実践・農業や自然に親しむ体験プログラムの構築と実践・しづやの森を活用した自然体験の実践
上久堅	<ul style="list-style-type: none">・豊かな自然を生かした観光の推進・神之峰城址、北田遺跡、秋葉街道、権現山等の魅力を伝える案内人養成支援を行ない、史跡を生かした観光の推進・地域観光のPRとして、地域住民が観光風景、体験内容について、ホームページ等で随時発信できるよう取り組む
千代	第4次千代地区基本構想に基づき、よこね田んぼ、万古溪谷、野池親水公園、下村広場など、千代地区にある資源を生かした観光の振興と推進に取り組む <ul style="list-style-type: none">・地域資源を生かした観光の振興・グリーン・ツーリズムの推進・地域資源を活用した行事の開催・各種団体や組織と連携した魅力発信
龍江	<ul style="list-style-type: none">・人も資源も経済も循環持続し、人が行き交う地域・地域認知度向上・関係人口の増加に向けたアウトドアレジャーなどのイベントの開催
三穂	<ul style="list-style-type: none">・旧小笠原家書院、資料館の活用・三穂地区との出会いの場として、9種類の体験プログラムの実践<ul style="list-style-type: none">①農地利用 ②郷土食体験 ③森林利用 ④木づかい体験 ⑤捕獲体験⑥田舎の親戚 ⑦講習会 ⑧空家利用 ⑨その他（田舎の親戚の家活用）
上村	<ul style="list-style-type: none">・遠山郷しぜんとあそぼう体験プログラムの実践と充実・小沢川小水力発電事業の推進
南信濃	<ul style="list-style-type: none">・道の駅「遠山郷」の活用・ゲストハウス「太陽堂」との連携・遠山郷観光振興ビジョン及び第2次遠山郷観光戦略計画と地区基本構想との整合性を図りながら地域振興策を推進・山岳文化伝統の会（遠山郷探検隊）との連携・三遠南信自動車道の県境開通を見据えた情報発信やPR

(3) 移住・定住を増やす

移住・定住を進めていく上では、地域の仲間として受け入れ、寄り添いあう関係づくりが大切です。中山間地域へ移住してきた方には、自分のライフスタイル（思い）が描けている方が多く、そのライフスタイルと地域の環境（人と人とのつながりや住環境）がマッチングしたときに移住している実態があります。

これらを進めていくためには、集落単位で受け入れをする気運の醸成と、中山間地域だからこそのライフスタイルをわかりやすく発信しつなげること、移住した後も、地域に関わる部分＝「関わりしろ」を増やすことで、移住者が地域の中に溶け込んでいく仕掛けづくりが必要です。

移住者のニーズには「農ある暮らし」など、この地域の自然を生かした暮らしに魅かれる方が多くいます。これらのニーズに応えていくためにも、地域の資源（農地、農業施設や機械、森林資源）を可視化し、マッチングをかけていくことが必要です。このため、関係団体などと連携を図り、移住のハードルを下げるための取組を進めます。

また、各地区まちづくり委員会等と協働し、求人情報や空き家情報を集約し、オンラインを活用した移住相談や暮らしの魅力を発信することで、新型コロナウイルスの影響により現地に来ることのできない状況にあっても、支障なく移住相談ができる環境をつくり、移住希望者のニーズに応えながら移住推進に取り組みます。

更に地域外へ出ている地縁者の地元回帰や、今住んでいる若者世代を流出させないダムの取組と合わせ、地域との関係性の中から移住したい思いをもった方への施策展開を、今ある資源活用を行いながら進めます。

- ア 集落の点検や関わりしろの検討・実践
- イ 若者世代を流出させないダムの住環境整備への支援と移住者への住環境整備への支援
- ウ 空き家対策
- エ お試し暮らし
- オ 移住定住の情報発信・相談窓口の設置、就業マッチング

○各地区で取り組む事業

地区名	重点的に取り組む内容
下久堅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家・空き農地に関する情報提供に向けた環境整備 ・ 人・農地プランによる農業移住者支援 ・ U I ターン移住案内人の設置 ・ 若者の定住環境の整備支援
上久堅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用できる空き家は、移住者を呼び込むため活用を促す。 ・ 利用できない空き家は、撤去を促す。 <p>目標件数は2つの取組を4年間で8件</p>

千代	<p>第4次千代地区基本構想の重点目標「行ってみよう千代、住んでみよう千代」に向けた「千代地区に愛着、誇りをもって暮らしていく地域づくり」や「Iターン、Uターンの受入」を推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用可能な空き家の調査、調整、リスト化 ・結婚支援
龍江	<ul style="list-style-type: none"> ・誰一人取り残されない、健康に暮らせる地域 子育て世代の声を受けとめ、反映し、子育て支援金制度などを継続し、出産・子育てのしやすい地域づくり ・美しい自然を活かし、安心安全で、災害に強い地域 ごみ分別カレンダーを掲示板化して、ごみリサイクル意識を高める。 ・絆を大切にし、互いに助け合い、学びあう地域 今田人形の保存と伝承の為、協賛企業・スポンサー確保に向けた活動を行う。
三穂	<ul style="list-style-type: none"> ・三穂地区との出会いの場として、9種類の体験プログラムの実践 ①農地利用 ②郷土食体験 ③森林利用 ④木づかい体験 ⑤捕獲体験 ⑥田舎の親戚 ⑦講習会 ⑧空家利用 ⑨その他（田舎の親戚の家活用） ・三穂の文化の象徴である旧小笠原書院周辺環境整備 ・地域の将来を担う子どもへの支援 ・若者の定住促進や高齢者等が安心して暮らせる環境づくり支援
上村	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で支える子育て支援 ・放課後見守り事業の継続と充実 ・遠山郷しぜんとあそぼうプロジェクトの活動支援 ・上村のいいところ発信（情報発信）
南信濃	<ul style="list-style-type: none"> ・山村留学及び移住体験プログラムによる移住定住策への協力・支援 ・お試し住宅の有効活用 ・遠山郷の暮らしと移住に関する情報発信を県、市と連携して行う ・自治会へ空き家の情報収集や移住希望者に対する世話役の協力依頼

（４）中山間地域だからできる産業おこし

中山間地域では、これまで、これからも農業が主要な産業基盤となりますが、これに加えて豊富な農山村資源を活用した、あるいは地域課題解決のための多様な地域振興ビジネスが必要になってきます。グリーン・ツーリズム、エコ・ツーリズムを関係人口や移住定住人口を拡大していくための地域主体の産業に発展させていく取組や、地域の振興や課題解決につながる中山間の特色を活かしたコミュニティビジネスを起すための人材の発掘・育成や、活動支援を行います。

ア 起業家育成

- ・「仕事がない」から「中山間地域だからできる仕事づくり」へ

- ・地域資源を活用した取組や、若者の思いなどを具現化する取組の一つとして、起業家を育成するプログラムの実施
- ・農山村資源を活用したコミュニティビジネスを起こす人材育成
- イ 中山間地域ならではの働き方・暮らし方
 - ・一つの仕事だけではなく、複数の仕事の組み合わせ
 - ・“従来の暮らし”を価値にした新たな産業づくり
- ウ 多様な中山間地域の資源を掛け合わせた産業づくり
 - ・農産品を活用したふるさと便等
 - ・地域の伝統文化を活用した産業おこし

(5) 中山間地域を横断した取組

遠山郷・竜東・天龍峡（三穂）エリアを軸にしながら、中山間地域の資源のネットワーク化を図り、交流人口の拡大に向けた事業展開を図ります。

第4章 中山間地域振興計画の推進

計画の推進のためには、行政と地域、関係する団体などが協働して取り組むことが必要です。推進体制を整え、進捗管理を行います。

1 計画推進の方針

①地域の主体性を重視した取組の展開

地域の活性化のために、地域住民が主体となった創意と工夫に満ちた取組を積極的に支援します。

②地域の実情に応じた取組の展開

中山間地域は、その課題の程度や性質は地理的条件や社会的条件により異なる面があることから、地域の実態に応じた取組を推進します。

③地域の特性を活かすソフト事業の展開

中山間地域では、その固有の自然や文化等の地域資源を効果的に活用した地域住民の取組を応援・支援し、地域の魅力を活かすソフト事業を推進します。

④集落など身近な地域からの取組の展開

中山間地域における食料生産、環境、国土の保全、伝統文化の継承などの多面的な機能を維持するために、集落など住民に身近な地域社会において、集落点検の中から維持、活性化する取組を推進します。

⑤中山間地域を横断した取組の推進

中山間地域において共通する課題の実態把握や課題解決に向けた取組を、飯田市中山間地域連絡会議や竜東部会等を中心とした体制により推進します。

⑥他市町村、関係団体等との連携による取組の推進

高度化、多様化する行政課題への対応や広域的視点に立った取組の必要性が高まっていることから、三遠南信地域連携ビジョンや定住自立圏構想などに基づき圏域市町村等と連携して取り組みます。また、南信州広域連合や農業協同組合、商工会議所、観光公社などの関係団体等とも連携して地域の活性化に取り組みます。

⑦総合的視点に立った取組の展開

中山間地域が抱える課題を様々な視点から統合的に捉え、それぞれの取組がより効果的に展開できるよう地域の実態に合わせ、地域と行政が一体的に取組ます。また、取組にあたっては、総合的視点に立ち各部局横断的な調整を図りながら中山間地域対策を推進します。

⑧継続的な改善と優先事業の実施

取組成果を評価、検証し、効果のある事務事業を優先して進めます。取組を検証するにあたっては、活性化に向けた地域住民の主体的な取組を誘発するよう努めます。

2 計画推進における役割分担

(1) 地域及び住民の役割

地域の実情や特性に応じた個性豊かな地域づくりを展開していくためには、地域住民が自らの住む地域に関心を持ち、地域の将来像を明らかにしながら、主体的に活動を行っていく役割が求められます。まちづくりに進んで参加する「ムトス」の精神により、一人ひとりがまちづくりの主体として取り組み、互いの活動を尊重し合いながら、この活動に積極的に参加・協力していきます。

(2) 地域資源等を活用した新たな事業体の役割

各地区においては、まちづくり委員会が計画推進を担うとともに、地域の課題解決に向けて継続的に実践する新たな事業体の設立も視野に入れた取組を進めます。

(3) 関係団体等と連携による役割

農業協同組合、商工会議所、観光公社、NPOなどの関係団体等とは、今後とも行政あるいは団体相互、住民等との連携・協力を図りながら、地域の活性化に取り組むために密接に協議していきます。

(4) 飯田市の役割

個性的で魅力ある地域づくりを推進するために、地域との協働により地域の実態を適確に把握することに努め、住民の主体的な取組の誘導や人材育成のための支援を行います。計画の推進に当たっては、まちづくり委員会をはじめ、関係団体や民間事業者といった多様な主体との連携を図りながら、具体的な活性化対策を実施します。

中山間地域振興のため、関係部局の連携を密にし、着実な事業推進を図るとともに、他の市町村との連携、協力を図りながら、広域的で効果的な地域活性化策を推進します。

また、中山間地域の活性化に関する対策や制度の充実・強化、広域的な基盤及び施設等の整備、モデル的な取組に対する実践及び支援などを国や県と連携し実施します。

3 中期におけるそれぞれの役割

1 今住んでいる人たちの暮らしの良さを高めていく

具体行動	ねらい	地域	飯田市
人財育成	・地域の担い手となる人材発掘と地域内外の人のネットワーク化	・人材の掘り起しと育成、ネットワーク化 ・地域学習	まちづくり委員会との協働
潜在的な力の掘り起し	・集落点検による地域の資源・暮らしの価値を高める。 ・外からの視点による地域の魅力再発見	集落点検からの地域の再発見活動	地域おこし協力隊の導入

2 関係人口（地域のファン）を増やす

具体行動	ねらい	地域	飯田市
①魅力・暮らしの情報発信	・暮らしの見つめなおし ・ターゲットの絞りこんだ情報発信、プロモーション	集落点検 地域内外の連携	関係部局、南信州観光公社との連携
②交流から関係へつなぐため、中長期の滞在プログラムの検討	中長期プログラムの研究・実践	エコ登山、トレッキング、サイクリング、民泊など	関係部局、南信州観光公社等との連携
③外部視点による中の気づきの誘発	外の視点による魅力の掘り起し	地域の魅力の発見 メニュー化	関係部局、外部視点とのつながり
④中山間地域の資源のネットワーク化	プロジェクト体制によるエリアアクションの推進	・地域の魅力の発見 ・行政と協働したプロジェクト体制の構築	地域と協働したプロジェクト体制の構築

3 移住・定住を増やす

具体行動	ねらい	地域	飯田市
①集落の点検や関わりしらの検討・実践	・移住者のライフスタイルと地域で実践できることのマッチング	集落点検	移住者へのアプローチ、情報収集等 お試し暮らし
②若者定住	・同居・近居誘導策により地縁者を取り戻す ・移住希望者を誘導する	対象者の掘り起し 事業への関与	移住・定住に伴う住環境整備への支援
③空き家対策	空き家情報の収集と、利活用に向けたマッチング	・空き家情報の収集 ・所有者への声掛け	空き家対策支援
④移住定住の情報発信・相談窓口の設置、就業マッチング	・暮らしの魅力の発信と移住者へのマッチング	・地域の魅力の発見 ・情報発信	移住者とのマッチング 移住相談窓口の設置 求人情報の集約

4 中山間地域だからできる産業おこし

具体行動	ねらい	地域	飯田市
①起業家育成	地域資源を活用した起業家の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の掘り起し ・事業者への応援・協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・起業家育成プロジェクト事業 ・事業後のフォロー
②中山間地域らしい働き方・暮らし方	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの仕事だけではなく、複数の仕事の組み合わせ ・“従来の暮らし”を価値にした新たな産業づくり 	集落点検	産業経済部との連携・支援
③中山間地域の資源を掛け合わせた産業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・農産品を活用したふるさと便等 ・地域の伝統文化を活用した産業おこし ・農村起業 	<ul style="list-style-type: none"> ・活用資源の検討 ・体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業経済部との連携・支援 ・起業家育成プロジェクト